



生きる力にアクセス

2024年度 活動報告書

一人ではどうにもできない貧困、
だから一緒に変えていく。

We walk together toward
the world without poverty.





フィリピンで、貧困の中で生きるということ

“ 一人息子を育てていて一番辛い瞬間はね、
お腹をすかせて泣く息子に、ゴミ捨て場から拾ってきた残飯を食べさせるしかない時。
病気になるリスクを知らながら、それ以外に何も用意してあげられない時。

都市スラムに暮らす女性アンジーの言葉です。

大切な人を守るどころか、危険にさらさざるをえない悔しさ。
ふがいなさ、無力感、怒り、絶望、自責。
胸が詰まるような想いに押しつぶされそうになりながら、
人々は貧困と闘い、日々を生きています。

「泣いてたって問題はなくならないでしょ。
だったら、ジョークの1つでも言って笑ってた方がいいよね。」

アンジーと同じスラムに暮らす女性たちは、そう言って笑いました。

笑顔という鎧で心を守りながら生きる人びととともに。
私たちは、貧困の痛みを軽減させる活動を、37年間、続けています。



子どもに教育

子どもに教育を
受けさせたい。
できれば自分で稼いで
家族を養いたい。

37年の活動の中で出会った、たくさんのお母さん・お父さん
たちの共通の願いは、「子どもに十分な教育を受けさせる
こと」でした。「仕事がほしい、自分で稼いで子どもに教育
を受けさせたい」と話す人にもたくさん出会ってきました。



女性に仕事

仕事があれば、その収入で三食食べられ、
子どもを学校に行かせられる。
病気やけがをしても、病院に行ける。
そうした子どもや自分の願いを自ら叶えることができ、
「援助されることへの申し訳なさ」を感じる必要もない。

そんな願いに応えるべく、私たちはずっと
「子どもに教育、女性に仕事」を届けることを
活動の中心に据えています。

- 「力をつける」アクセスの3つの活動
1. 子どもに教育を

2. 女性に仕事を

3. 日本の若者に成長の場を

理事長からのメッセージ



アクセス理事長
野田 さよ

フィリピンで暮らし始めた頃、日本との違いに戸惑っていた私を冗談とダンスと笑
顔で励ましてくれたのは、都市スラムのおばちゃんやおじちゃん、若者たち、子ども
たちでした。彼らに助けられ、2年間のフィリピン暮らしを無事に終えることができ
ました。あの時お世話になった人たちに恩返しをしたいという想いが、私の原動力に
なっています。

日々コツコツと働き、頭を抱えながら家計をやりくりし、子どものためにと走り回
る世界中のお母さん、お父さんたち、そして子どもたちが、幸せに生きられるよう
にしたい。世界から、貧困や人権侵害をなくしたい。フィリピンで、そして息苦しい日
本でも。地球に暮らす私たちみんなが、「いろいろあるけど、支えてくれる人がいる
から頑張れるな」と思える世界にしたい。そんな想いで、活動を続けています。

37年間のアクセスの道のりは、山あり谷あり。それでも続けてこられたのは、同じ
想いを持った人々との出会いがあったからです。この報告書が、同じ方向を見つめる
皆さんとの出会いや、ご縁を深めるきっかけになればと願っています。



フィリピン共和国

広さ：	日本から北海道をのぞいたくらい	GDP成長率：	5.7%	（2024年）*1
人口：	1億903万人 世界13位	識字率：	93.1%	（2024年）*2
言語：	80以上	小学校卒業率：	80.71 %	（2023年）*3
公用語：	フィリピン語、英語			
宗教：	90%以上がキリスト教徒			

出典：日本政府外務省

成長するフィリピン経済と、広がる格差

この20年でフィリピンの都市部の暮らしは大きく変化しました。年率6%
前後の経済成長が続き、ショッピングモールや新車が増え、スマホを片手
にスターバックスを楽しめる中流層が増えました。その一方で、貧富の格
差は拡大を続けており、物価上昇の影響もあって、貧困層15.5%*4の暮ら
しは改善するどころか悪化しています。

*4 フィリピン統計局

京都生まれのアクセス、 どうしてフィリピンで活動するように？

アクセスが活動を始めたのは1988年。京都のお菓子メーカーの社会貢献
活動の一環として始まり、当初の活動は、日本に暮らすアジアからの留
学生や出稼ぎ労働者の方々へのサポート活動が中心でした。創設者の一
人がフィリピン人だったこともあり、90年代に入ってからフィリピンで
も活動するようになりました。

生きる力・変える力を伸ばす

私たちがいつも大切にしているのは、「アクセスが、モノ・カネを提供するだけの存在になってしまわないこと」です。
貧困や権利侵害に苦しむ子ども・若者・女性たちが、互いに助け合い、協力し合いながら、自分たちの力でしんどさから抜け出せるように。
苦しむ人を減らしたいという私たちの願いが、貧困を生み出す構造を変える力となっていけるように。
一人ひとりの中にある「生きる力・変える力」を引き出し、力を合わせて困難を乗り越えていくことを、何より大切にしています。



アクセスの 3つの活動

1 子どもに教育を

5人に1人が小学校さえ卒業できないフィリピン。アクセスは、都市スラムと農漁村で、小中高校を卒業するための教育支援プログラムを実施しています。(1997年～)



320人に
学びのチャンスと生きる力を

▼就学サポート

貧困家庭の子どもたちに、制服・靴・カバン・文房具などを現物支給。学校に収める諸費の一部も提供し、経済的理由での中退を防いでいます。

▼子どもの権利を知り、生きる力を伸ばす

体罰・いじめ・児童労働・育児放棄などは、子どもの権利侵害。ワークショップで子ども自身に権利を知ってもらうとともに、「つらい・苦しい・助けて」を言葉で表現できるようになるための訓練をしています。子どもたちの保護者を対象に、子どもの権利を尊重した子育ての仕方を学ぶセミナーも継続的に開催。地域の大人が協力し、子どもたちが安心して成長できる環境づくりに取り組めるようサポートしています。

■詳細はP5-6に

2 女性に仕事を フェアトレード

フィリピンの貧困層の大半は農漁村に暮らすと言われ、仕事を求めて都市部へと移り住む人々が後を絶ちません。住み慣れた地元で家族と一緒に暮らしたいと願う女性や若者を対象に、フェアトレードでの仕事を創出してきました。(2000年～2025年)



お米**55kg**相当の収入に

▼仕事のチャンスと稼ぐ力

「働きたいけど仕事がない」と、もどかしい思いをしていた農村の女性や若者たちは、フェアトレード事業に参加することで、手作り雑貨を生産するスキルを習得。10名がフェアトレード生産者として働き、2024年度は月平均2,221ペソ（約5,900円／米55kg相当）の収入を得ました。「夫の稼ぎと合わせることで、子どもを学校に通わせられるようになった」といった声が届いています。

▼スキルへの誇りと自信

日本のお客さまから高く評価いただけてきたことで、生産者は自分のスキルに誇りを持てるようになりました。また、自ら稼げるようになったことで、「家計の重要な話し合いで自分も意見を言えるようになった」と話す女性もいます。

■詳細はP7に

3 日本の若者に 成長の場を

貧困の原因を探りながら、解決のために行動する人を増やすことも大切です。スタディツアーやインターンシップ、ボランティア、講演、イベントなどを通して、日本の若者のアクションを後押ししています。(1991年～)



年**398人**の若者が参加！

▼スタディツアーに58人

2024年度は、フィリピンを訪れるスタディツアーを4回開催しました。貧困の中で生きる人々のリアルな現状を知るとともに、貧困が生まれる構造や自分にできるアクションについて、じっくり語り合いました。

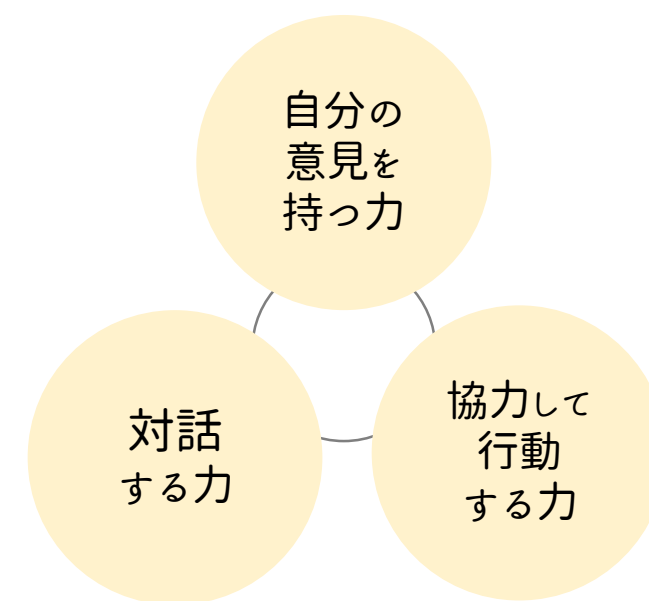
▼インターンシップやボランティア参加は100人超

若者の社会を変える力を引き出しながら、ともに社会課題を解決していくことをめざし、2024年度も多くの若者に活動に参加してもらいました。

・スタディツアー・インターンシップ 学生リーダー6名
・フェアトレード事業 検品ボランティア のべ98名
・講演・講義・イベント等への参加者 180名

■詳細はP8に

アクセスが考える
「生きる力・変える力」



✓ 安心してすごせ、本音で語り合える場や関係性をつくることで、自分たちの手で問題を乗り越えていける力を伸ばします。

✓ 支援する側・される側を固定せず、つながりと協働のなかで、互いの力を伸ばし合う関係を大切にします。



子どもに教育を

アクセスの 子ども教育プログラム

貧困家庭の子どもが
小中高校を卒業できるように、
また**子どもの権利**が侵害されることなく
安心してのびのびと成長できるように、
子どもサポーターの皆さんと一緒に
に支援する、教育里親制度です。

継続して成長を見守れる、一対一のサポート



- ✓ 子どもサポーターの方からのご支援で、フィリピンの子ども一人が年間、学校へ
- ✓ 応援してくれるサポーターの存在が、学び続ける上での励みに

1997年から、のべ3,900人以上の就学をサポート！

子どもサポーターのお申込はこちらから☞



プログラムの3つの柱



1 就学サポート

通学に欠かせない制服・カバン・文房具などを現物で支給。学校に支払う諸費の一部を現金で支給しています。



2 土曜や夏休みのワークショップ

いじめや虐待、児童労働といった子どもの権利侵害から身を守るよう、子どもの権利を学ぶワークショップを実施しています。ゲームやロールプレイなども交えて楽しく学んだあとは、健康面に配慮した軽食も提供しています。



3 保護者セミナー開催と保護者会の組織化

子どもの権利を尊重した子育ての仕方をするセミナーを年4〜5回開催。毎月の保護者会では、子どもの権利の視点から見た子どもたちの状況を報告し合います。子どもからのSOSをキャッチした際には、保護者が協力し合って問題解決にあたれるよう、サポートしています。

*フィリピンでは、幼稚園から高校までが義務教育のため、公立学校であれば学費は無料です。ですが、経済的に苦しい家庭にとっては、学用品代や交通費、学校に支払う諸費などが負担となり、年度途中の中退につながっています。

見に来てください！
動画や記事



YouTube 上で、
「アクセス事務局」と検索！



＼おススメ動画／
【大阪大学の三谷はるよ先生と考える】
子ども時代の辛い体験は一生を左右する？！
日本とフィリピンで、私たちに今できること

2024年度は

320人の 学びをサポート！ 70人が小学校を卒業 4人が高校を卒業

都市スラム 小学生90人
農漁村 小学生180人／中高生50人

【都市スラム】
マニラ市
トンド地区

【農漁村】
アラバット島
パレーズ地区

アクセスの
2つの事業地

子どもを守る最強の盾は
「教育×子どもの権利」



2024年10〜11月に実施した子どもの権利クラウドファンディングでは、192人・法人の皆さまから、266.7万円のご寄付をいただきました。ご協力くださった皆さまに心よりお礼申し上げます。

全国16名のボランティアが
1,000通以上を翻訳！

フィリピンの子どもたちや保護者から届くメッセージの翻訳は、全国各地の翻訳ボランティアさんが日本語訳してくださいました！
*翻訳ボランティアを募集しています。ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

フィリピンから届いた声



農漁村出身の元奨学生
アンレスさん

家族を支えるという夢を
叶えることができました。

サポーターさんのご支援で、小学校を卒業。高校卒業後にバタンガス市の工場に就職して安定した収入が得られるようになったため、妹弟の進学費用を私の収入から賄うことができました。2025年1月、同じ会社で働く技術者と結婚。現在、生後5か月の娘と3人で、バタンガス市で暮らしています。



アクセス・フィリピン
事務局スタッフ
ジェリック・ララ

NGOの本当の役割とは

NGOとは、お金や物を提供してくれる存在だ、と考える人が少なくありません。でも、それは誤解です。僕らの本当の役割は、貧困の中で生きる人々自身が自らの手で現状を変えていけるようにすること。人々の中にある力を引き出し、背中を押すことです。

本プログラムは、子ども教育サポーターの皆さま、その他のサポーターや寄付者の皆さまからのご寄付、および5つの助成金（連合 愛のキャンパ／森村豊明会／大阪コミュニティ財団／日蓮宗あんのん基金／浄土宗平和協会）によって実施しました。



2025年4月、
アクセスの教育支援プログラムで
初の高校卒業生が
4名誕生しました！

ご支援くださってきた
子どもサポーターの皆さま、
本当にありがとうございました。



2024年度の活動カレンダー

	2024年						2025年				
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
学校	卒業式 夏休み		通学 7/29~4/15								
アクセス	奨学生 募集	学用品 配布	クリスマス パーティー								
	夏休み ワーク ショップ		子どもの権利を学ぶ土曜ワークショップ (年10回前後) *地区や学年によって回数が異なります								
	保護者会＆保護者向けセミナー（ほぼ毎月）										

子どもを守る盾であり、 子育ての指針でもある「子どもの権利」



- 権利を知って経験を語り合うことを通じて、子どもたちはしんどさを表現する力を伸ばし、困った時にSOSを出せるようになってきています。
- 保護者向けセミナーでは、体罰や暴言以外の方法で子どもたちを育てられるよう、権利を守る育児法を伝えています。



アクセスの保護者セミナーに参加するようになってから、子どもの力を信じることの大切さに気付かされ、子どもの声に耳を傾けるようになりました。保護者会では集落リーダーに選ばれました。メンバーと意見を出し合い、子どもたちを守るために何ができるか、みんなで模索しながら活動しています。

(パレーズ地区の保護者 アリスさん)

女性に仕事を



日本の若者に 成長の場を

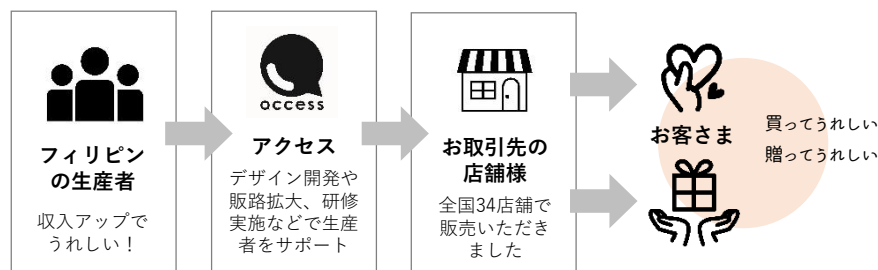


スタディツアー | インターンシップ | ボランティア

アクセスの フェアトレード事業

働きたくても仕事のない女性や若者に、
雑貨生産の仕事を提供し、生産された品物を
フェアトレード商品として販売。
安定した収入が得られるようにするとともに、
生産者グループとして協働する力の向上
につなげています。

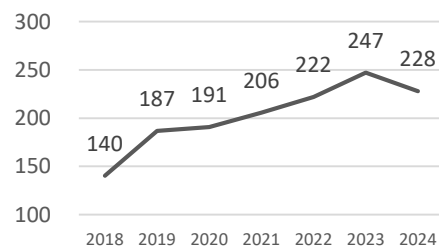
作る人・買う人・贈られる人
みんながHAPPYになれるのがフェアトレード



2024年度の売上は

228万円
(前年比92.7%)

2018年以降の売上の伸びグラフ
(単位: 万円)



生産者10人
に安定収入を
提供！

月平均
2,221ペソ*
の収入が
各生産者の手に

*米55キロ分に相当
*円換算すると約5,900円



夫の収入が途絶える時期は借金をして
いましたが、今は自分の稼ぎで生活を
つなげるようになりました。

幼い子を病気で亡くしてふさぎ込んでいた
が、この仕事を始めて、働いている時だけは辛い
ことを忘れられるようになりました。

家計の重要な決断をするときに、自分も
自信をもって発言できるようになりました。

オンラインストア



生産は終了しましたが、在庫
がある商品については、オン
ラインストアで販売を継続し
ています。ぜひ一度、チェッ
クしてみてください！



テレビで紹介
されました！
朝日放送のCAST



フェアトレード事業の終了について

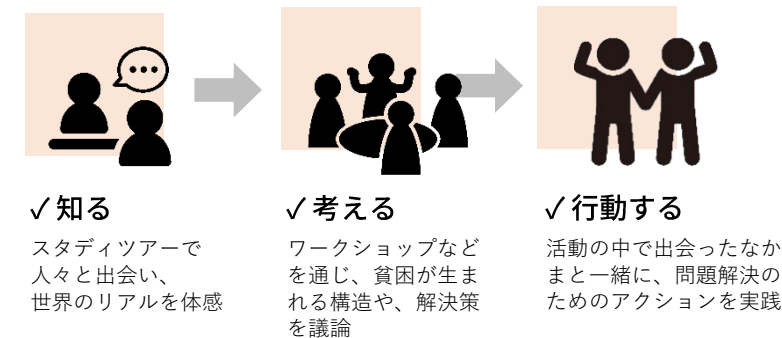
1997年より28年間にわたり、フィリピンの生産者とともに続けてきた
フェアトレード事業ですが、2025年12月末をもって商品生産を終了する
こととなりました。長年続けてきた大切な事業を終了する
というのは、私たちににとってまさに苦渋の決断でした。
この決断に至った背景、私たちの想い、そして今後に
ついては、ウェブサイトをご確認ください。



日本の若者の 「変える力」を伸ばす

フィリピンの人々の暮らしや想いにふれる
と、世界中の貧困や人権侵害が、他人事とは思えなく
なります。「かわいそうだから助けてあげた
い」を越えて、貧困を生み出している構造に目を向
けていながら、同じ想いを持った人と協力して、
できることから行動にうつしていく。そんな「変える
力」を伸ばせる活動の場をつくっています。

世界を変える、3ステップ



2024年度は

知る **58人**が
フィリピンを体感



スタディツアー
フィリピンの都市スラムや農漁村を訪問。
4回のスタディツアーを通じたフィリピン
の人々との交流で、貧困の現実や人々のあたた
かさを体感しました。

*連携校
立命館大学／龍谷大学／立命館高校／立命館宇治高校

講演・講義・イベントにのべ338人が参加

*イベント主催団体・受け入れ校
立命館大学政策科学／Rits SALT／龍谷大学国際学部／マニラ日本人学校中部部／株式会社ココウェル／名古屋NGOセンター／地域ともいきラボ／立命館高校／
立命館宇治高校／京都産業大学ボランティアセンター／神戸学院大学ボランティア活動支援室／福知山公立大学／新日本婦人の会藤森班／日本国際ボランティアセンター

考える



本音で語り合い、
考え抜き、学び合う

ツアーに参加し、「幸せ」についてよく考えるよう
になりました。スラムで出会った人々はどんなに生活が
苦しくても笑っていて、私たちが暖かく迎えてくれま
した。貧困とは何か、どうしたら貧困から脱却できる
のか、何が必要なのか、私たちにできることは何か、
沢山考え、話し合い、ツアーが終わる頃にはそれら全
ての経験が自分の宝物となったと感じています。

(大学生／ななせ)

行動
する

若者と一緒に
スタディツアーを企画


春・夏それぞれ3名の学生インター
ンと5ヵ月かけて、スタディツアー
を実施しました。どうすれば貧困の
現状や構造的な原因を理解してもらえ
るか、丁寧に話し合って準備。迷い
悩みつつも、全力で取り組むこと
で、企画する力や伝える力を伸ばす
ことができました。

のべ100名以上が
ボランティアとして活動

2024年度も、多くの若者からボラ
ンティア希望の問い合わせが。フィ
リピンから届いたフェアトレード商
品の検品作業や、商品の魅力を伝え
るSNS運用などを担っていただきました。
検品ボランティアには、のべ
98名が参加。フェアトレード事業の
意義を知ってもらう機会であると同
時に、貧困問題に関心を持つ人たち
同士の出会いや交流の場にもなって
います。


一緒に歩んでくださった皆さま

アクセスが貧困や人権侵害をなくす活動を継続できているのは、たくさんの方々が活動を応援してくださっているからです。一緒に歩んでくださっている方々の一部をご紹介します。

**55名**
正会員

**787口**
サポーター

**約160名**
ボランティア・プロボノ

**10名**
インターン



ご寄付

資金
本・CD・DVD・ゲーム 318件
書き損じはがき 156件
17件／217枚



熊谷万里子さん
マンスリーサポーター

以前マニラに4年駐在して子ども達を目にしていた。母子のために何かできることはないかと思ってアクセスを知りました。子どもに教育と権利を学ぶことや食事つきの補習授業、女性にフェアトレードを提供されている。マンスリーサポートなら私でもできる。幸せの種を蒔いてフィリピンで花咲くイメージで続けます。



近藤倫明さん
フォトグラファー／マンスリーサポーター

マニラで写真を撮るのが好きだ。底抜けに明るい人々の笑顔と、生活が染みついた街並みを写真に焼き付けていく。どれも良い写真だが、貧困の罅も垣間見える。そこで、サポーターになることにした。素敵な写真を撮らせてくれたマニラの皆さんに、少しでもお返しを。
Instagram：@michiaki_photos



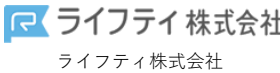
薬院オーガニック株式会社



株式会社 オルタナティブツアー



ブランシェス株式会社



ライフティ株式会社



有限会社 シサム工房



株式会社ココウェル



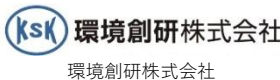
株式会社ビジネスパートナー



一般財団法人H₂Oサンタ



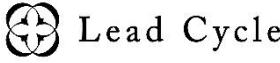
ブックオフコーポレーション株式会社



環境創研株式会社



DragonBlood株式会社



Lead Cycle 株式会社



株式会社 大闘



株式会社 マナプラス



株式会社 相田



N-PAX グループ



株式会社リアライズ

■2024年度にご支援いただいた助成団体

公益財団法人 大阪コミュニティ財団／公益財団法人 森村豊明会／日蓮宗あんのん基金／浄土宗平和協会／連合 愛のカンパ




ログに込めた想い

ふきだしの形は、「みんなで話し合うことを通じて活動を創っていく」というアクセスのスタイルを表現しています。「活動を通じて支え合う関係をつくり、その中で笑顔ふやしていきたい」という思を込めて、ふきだしがニッコリ笑っているようなデザインになりました。



アクセスの公式アンパサダー
おさるの「ターシャん」 活躍中！

Illustrated by Mina Sato

 mameshibaz

2024年度 活動計算書 2024年4月1日～2025年3月31日（単位：円）

収入の部	2023年度	2024年度
サポーター費・会費	9,322,500	10,028,000
寄付金	8,471,041	7,354,748
助成金	3,185,000	2,610,000
フェアトレード事業	2,466,885	2,289,121
スタディツアー事業	4,926,833	6,062,460
講師派遣事業収入	253,250	214,427
その他	280,127	1,657
合計	28,905,636	28,560,413
支出の部	2023年度	2024年度
海外事業費	14,730,030	15,974,940
フェアトレード売上原価	1,034,589	1,326,914
国内事業費	7,640,724	7,780,941
管理費	4,371,856	3,539,009
合計	27,777,199	28,621,804
当期経常増減額	1,128,437	△61,391
過年度修正損	0	△50,300
当期正味財産増減額	1,128,437	△111,691
前期繰越正味財産額	3,578,236	4,636,673
次期繰越正味財産額	4,636,673	4,524,982

サポーター費・会費
マンスリー・サポーターが増加したことから、活動と一緒に進めてくださる方々の数が過去最高となりました。

寄付金
子どもの権利クラファンでは192人・法人からご寄付をいただきました。フィリピン在住の方からのご寄付も増えています。

助成金
5つの助成団体から子どもの権利啓発事業をご支援いただきました。

フェアトレード
ファンドレイズ活動に力を入れるため、フェアトレード事業にかけける時間を制限したことにより、売上がわずかに縮小しました。

スタディツアー
対面スタディツアーの本数が増えたことで収入が増加しました。

海外事業費
対面スタディツアーの開催や物価高騰、円安により、現地経費が増加しました。

フェアトレード売上原価
材料費の高騰および円安により増加しました。



* 詳細な決算報告書（活動計算書、貸借対照表、監査報告書、財務諸表の注記については、ウェブサイト上で掲載しています。

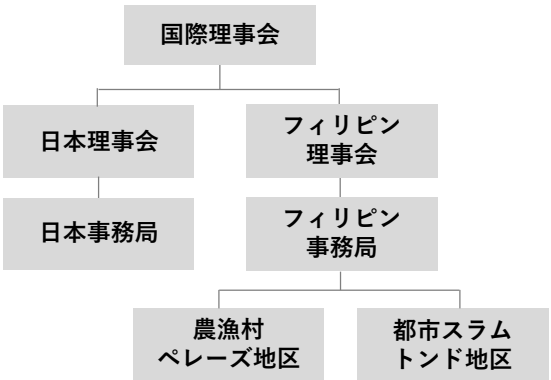
<https://access-jp.org/about/reports>

組織概要

認定NPO法人
アクセスー共生社会をめざす地球市民の会（2025年12月時点）

所在地 612-0029 京都市伏見区深草西浦町8-85-4
TEL 075-643-7232
設立 1988年10月1日
法人格取得 2000年2月7日
認定取得 2016年8月10日

理事長 野田 沙良
常務理事 森脇 祐一
理事 位田 浩 片岡 卓三 倉辻 悠平
崎山 政毅 白坂 有子 新開 純也
杉山 遼 田中 雅規 西村 知晃
廣瀬 昌代 松本 祐子
監事 藤野 正弘
日本事務局 森脇 祐一 野田 沙良
中村 智子 塩田 真也 日高嶺那



日本とフィリピンの
スタッフをHPで紹介しています
<https://access-jp.org/about/staff>

一緒に届けてください



生きる力にアクセス

学びたい、働きたい、貧困をなくしたい。
そんな願いを持った子ども、若者、女性の
力を伸ばすアクセスの活動は、
みなさまからのご寄付に支えられています。
一人ひとりがもつ「生きる力・変える力」を引き出していく活動を
ぜひいっしょに広げてください。



1,000円で
給食10食分に



月1,000円×1年間で
新品の通学靴12足分に



月2,000円×1年間で
1人分の小学校就学費に



認定NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会

〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町8-85-4

☎ 075-643-7232

✉ office@access-jp.org



<https://access-jp.org>



[access_japan](#)



[accessPhilippinesJapan](#)



[access_tour](#)

マンスリー
サポーター
募集中！

今回だけのご寄付も
大歓迎です

▼クレジット決済



ご寄付の40%が控除に

月1,000円のご寄付を1年間すると、
最大約5,000円の控除が受けられます。

アクセスは京都市から認定を受けた「認定NPO法人」です。
認定NPO法人へのご寄付は税控除の対象となります。

▼郵便振替口座

00960-8-159800

加入者名 ACCE